

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 乙第 2463 号

Efficacy of cytapheresis for remission induction and dermatological manifestations of ulcerative colitis

潰瘍性大腸炎に対する寛解導入療法および皮膚疾患合併症に対する血球成分除去療法の有効性

野村 収 (のむら おさむ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、難治性の活動性潰瘍性大腸炎に対する標準療法の一つである血球成分除去療法の寛解導入療法及び合併皮膚疾患に対する有効性に焦点を当て、自験例を後ろ向きに検討したものである。当院で 2008 年から 2015 年の間に血球成分除去療法を施行した 181 症例に対する治療有効性は、寛解率 52.5%、有効率 71.8%だった。更に、血球成分除去療法単独群と他の寛解導入療法の併用群での有効性に差はなかった。プレドニゾン併用例は 84 症例だったが、治療により 1 日の平均プレドニゾン投与量が、18.15mg から 12.43mg に減少し、21.7%がステロイド離脱に成功した。皮膚疾患合併症例は 13 症例あり、全例が症状の改善や病変の縮小、消失などを認め、有効性を示した。副作用は顔のほてり、頭痛や軽度発熱など 7 症例認めたが、いずれも自然軽快する軽微なものであった。以上により、潰瘍性大腸炎治療における血球成分除去療法が、ステロイド減量効果や合併皮膚疾患に対し有効であり、安全で有効な寛解導入療法であることを示した臨床的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。